

第6期宮前区区民会議第4回会議

第6期宮前区区民会議第4回会議

- 1 日 時 平成29年1月13日（金）午後6時
- 2 場 所 宮前市民館4階第4会議室
- 3 出席者
 - (1)委 員 川田委員長 青柳副委員長 影山副委員長 中里部会長 佐藤部会長
荒川委員 老門（泰）委員 老門（聰）委員 大久保委員 小田委員
黒澤委員 砂川委員 滝本委員 田辺委員 椿委員 中村委員 山田委員
山部委員
 - (2)参 与 矢沢参与 渡辺参与 持田参与
 - (3)事務局 野本区長 堤副区長 小佐野区民サービス部長 小林向丘出張所長
益子保健福祉センター所長 池田保健福祉センター副所長
小林道路公園センター所長 吉越生涯学習支援課長 高石企画課長
小山企画課担当係長 米塚企画課担当係長 事務局（小西、岩下）
- 4 議 事
 - (1)審議経過報告①（仮称）地域福祉部会（公開）
 - (2)審議経過報告②（仮称）地域活性部会（公開）
 - (3)部会審議内容についての質疑応答・意見交換（公開）
 - (4)区民会議フォーラムの企画について（公開）
- 5 その他連絡事項
第9回まちづくり広場ラブみやまえについて
- 6 傍聴者数 2人

午後6時開会

司会（堤） 皆さん、こんばんは。定刻となりましたので、これより区民会議を開催いたします。

本日の進行を務めます副区長の堤でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。恐縮でございますが、ここで着席をして進めさせていただきます。

それでは、会議開催に先立ちまして事務連絡をさせていただきます。本日の会議開催に当たりまして、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき公開とさせていただきます。したがって、傍聴、報道機関等の取材許可をしておりますので御了承いただきたいと存じます。また、会議録の作成に当たり、速記者に同席いただいておりますので、よろしくお願ひをいたします。そして、本日発言のございました方々につきましては、後日、議事録の確認をお願いしたいと存じますので、よろしくお願ひいたします。なお、確認後の議事録は区役所ホームページに掲載いたします。また、傍聴の方々につきましては、遵守事項をお守りいただき、本日の会議に関するアンケートの御回答をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひい

たします。

次に、本日の委員、参与の出欠状況等について御報告をいたします。区民会議委員につきましては、葛西委員、大木委員から事前に御欠席の連絡をいただいております。参与につきましては、矢沢参与に御出席をいただいております。また、持田参与、渡辺参与からも御出席をいただける旨の連絡をいただいております。なお、飯田参与、添田参与からは欠席される旨の御連絡がございました。

1 開会あいさつ

司会（堤） 続いて、議事に先立ちまして、宮前区長の野本から一言御挨拶を述べさせていただきます。

区長 皆様、こんばんは。何か急に寒くなりました。本当にお寒い中をこの坂の上までお運びいただきまして、ありがとうございます。また寒い時期は寒い時期で、きのう、青い月というのを久しぶりに見たなと思いましたが、本当に空気の冷たい時期は、すごくきれいに見えるものもがございます。心よりこの会議に御参加いただいていることを御礼申し上げます。

昨年の4月から始まりましたこの会議も、全体会としては今回が第4回目ということで、今年度最後の全体会になります。きょうは、各部長さんからこれまでの審議経過について御報告いただけるということで、大変楽しみにしてまいりました。3月に予定されておりますフォーラムのほうにぜひ行かせていただければと思います。

本日も、どうぞ引き続き御熱心な御議論をお願いして、実り多いフォーラムに、そしてこの第6期の前半を充実したものとしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

司会（堤） ありがとうございます。

ここで、本日、皆様のお手元に配付してございます資料の確認をさせていただきますと存じます。まず表紙、本日の会議の次第、資料1が座席表、資料2が委員・参与・事務局名簿、そして資料3が第6期宮前区民会議の進行イメージ、資料4が審議経過報告資料、資料5が区民会議フォーラム企画（案）。以上が本日の会議資料でございます。また、それとは別に委員の方々からいただきましたチラシを配付してございます。これにつきましては後ほど事務連絡の折に説明をさせていただきますと思います。不足等はございませんでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、これより第6期宮前区区民会議第4回全体会議を開催いたします。これからの進行は委員長をお願いいたします。川田委員長、よろしくをお願いいたします。

2 議事

川田委員長 それでは、皆様、改めまして、明けましておめでとうございます。どうぞこ
ともしよろしく願いいたします。

今回、4回目の全体会ということで、1回目から3回目まで一体どうなっちゃうの
だろうと、委員さん、事務局以外の方たちは、本当に御心配されたのではないかと思
っております。そして、前回からきょうまで、各部会を2回ずつ開きまして検討して
まいりました。皆さん本当に一生懸命にいろんな御意見を出されまして、時間なんて
あってないようなものでございました。ところが、きょうは全体の会議でございます
ので、ぜひ8時終了ということで、これは厳守していただきたいなと思っております。
かなりいろんな御意見が部会で出ておりますので、報告などもすごく長いものにな
ると思います。きょうに関しては、お1人ずつの御意見は何う時間がございませ
ないので、それはお許してください。そして、また報告後に質疑応答などいただきます
ので、何か御意見がありましたら、そのときにお話しいただければと思います。

(1) 審議経過報告①（仮称）地域福祉部会

川田委員長 それでは、早速地域福祉部会の報告から、部会長、お願いいたします。

中里部会長 それでは、地域福祉部会の審議経過を報告いたしたいと思えます。資料4を
見ながら、お願いしたいと思えます。

まず、前回、第3回の全体会以降、2回の部会を開催いたしました。10月24日の第
3回の部会は、地域課題、区民のお困り事を吸い上げる仕組みについて主に話し合
いをしました。それから、11月28日に第4回の部会を開催しまして、部会で扱う地域課
題、審議テーマについて部会員で再度意見の交換をいたしました。

続きまして、次のページです。第3回、第4回の各会議について、少し細かく説明
をさせていただきたいと思えます。

第3回の会議では、さまざまな意見とか話題が出ましたが、最終的なまとめとし
ましては、ごらんとおり、区民と地域、具体的に「区民と行政、区民と活動団体をつ
なげる、近づける」こと、それが部会の目標として設定されました。また、次の第4
回の部会会議に向けまして、各委員で所属団体、関係団体の関係者等に意見を伺い
ながら、つなげる対象や課題、取組提案をまとめて発表し合うということにしました。

それでは、第3回の具体的な討議内容ですけれども、このまとめに至る前段階とし
まして話し合いが行われたのが、地域の課題や区民のお困り事を吸い上げる仕組みで
す。まず出たのが、区民会議が地域のお困り事を聞いてはどうだろうかというような
方向性でございます。区民会議委員になってから、区民から細かい要望を託されたり
というような声も聞かれました。また、前回の第3回の全体会でも話題となった地域
の危険な階段の解決など、地域の課題、区民のお困り事を吸い上げ、小さいことから

解決していったらどうかというようなことです。それから、区民会議のアピール、知名度アップにもつながるのではないかなと考えました。その上では、市長への手紙、ご意見ボックスなど、既存の制度も踏まえながらいろいろ話を進めてまいりました。

まず進め方としては、活動団体へのヒアリングです。各委員が所属したり関係する活動団体を対象に、お困り事などを聞いてみてはどうだろうかという話になりました。過去の区民会議の提案でも、具体的な活動を挙げて支援を提案することで活動しやすくなったと、発展した例も紹介されました。例えば赤ちゃん広場の会場の確保など、それから冒険遊び場の推進、風の泉の学校の折衝など、そういった例が話し合われました。

それから、場のイメージということで意見交換をいたしました。地域のサロンや縁側などの形や事例、巡回型の場所の創設をしたらどうか。公園の活用なども、こうしたらいいんじゃないかというような案もいろいろ出まして、議論をいたしました。そのほか、資料にはありませんが、学びのポイントラリーというものや、災害時の要援護者支援などの課題や取組も話し合いの中で話題になりました。

以上が第3回の部会の内容です。

続きまして、第4回の部会ですけれども、会議では、各委員から提案されましたつなぐターゲットや取組提案をもとに、部会としてのターゲット、テーマの絞り込みを図りました。議論が大変紛糾しまして8時に終わる予定が9時までかかり、1時間オーバーしました。最終的にテーマ、ターゲットの候補として挙げられたのが次の3つでございます。まず1つ目が「企業や商店の場・スペースの活用」です。2つ目が「認知症の理解・地域支援の推進」です。3つ目が「子どもを対象とした取組」です。

それぞれに対する内容や意見を少し説明させていただきたいと思います。

まず初めに「企業や商店の場・スペースの活用」ということですが、これは部会を通じまして繰り返し話題となっていました地域のたまり場や情報の拠点、それから相談拠点などの機能の新たな設置場所として、企業や商店の場、スペースの活用を探ろうというものでございます。藤沢市でマクドナルドの店舗内のキッズスペースが地域の縁側の活動に活用されている事例が新聞などで紹介されましたと部会の中でも紹介され、宮前区内でマクドナルドなどの店舗やカーディーラーのフリースペースの活用ができないかというような意見も出されました。それには個別の交渉の必要性や、何を目的にして、どんな場所にするのかとか検討がまだまだ必要ですが、企業のCSR、地域貢献活動も昨今話題になっておりまして、実現への道筋が探れればと考えております。

2つ目のテーマ案、「認知症の理解・地域支援の推進」ですけれども、地域包括支

援、認知症カフェなども全国的に話題となる中で、非常にタイムリーな課題かなと考えています。まず必要と考えたのは、地域の企業や商店の理解推進や連携でございます。特にコンビニなどの店舗では、実際に認知症患者のお客さんとのトラブルが増えているという報告もあります。適切な対応や理解を深めることが急がれるという指摘が委員よりありました。また、認知症は、必ずしも高齢者のみの問題ではないことや、子どもの世代も含めた多世代、地域で支えていくことが重要であると指摘され、そのための取組を進めることで地域コミュニティのきずな、部会が目指す人と人とのつながりづくりにもつながっていくのではないかなと考えています。部会では、地域での認知症サポーター養成講座の開講実績が資料として出されました。その中でまだ実績の少ない企業や商店の受講、多世代一緒の受講など、方向性を検討しながら考えていきたいと思っております。また、さきの企業や商店のフリースペースの活用とこの取組については、川崎市が地域の福祉分野も含めて包括連携協定をセブン-イレブンと結んでいるそうなのですが、その協力依頼で、テーマを考えて、実現性を高めていこうじゃないかという意見も出ていました。

3つ目のテーマ「子どもを対象とした取組」ですけれども、宮前区は川崎市内でも子どもの多い区ですけれども、高齢化社会の中でどうしても高齢者が子どもよりも優先される傾向にありますので、もっと子どもたちの住みやすいまちこそ将来につながるという意見がありました。子どもをめぐっては、前回の全体会でも発表いただいたとおりでございます。これまで部会でもさまざまな課題指摘がされています。学校、家庭に次ぐ地域の中で、第3の居場所や見守りの必要性、見えにくい貧困や、地域みんなで見守りをする仕組みづくり、それからトワイライトステイとか、今話題の子ども食堂とか、まだまだ宮前区にない取組事例も幾つか話し合いの中で出まして、今後主なターゲットとして対象や課題を絞り込んで、具体的な取組提案の検討につなげられればよいなと考えております。

以上が第3回、第4回の部会の審議経過でございます。以上でございます。

川田委員長 ありがとうございます。地域福祉部会の皆様方、本当に御苦労さまでございました。また何か補足がございましたら後ほどお聞かせください。

(2) 審議経過報告②（仮称）地域活性部会

川田委員長 それでは続きまして、地域活性部会、佐藤部会長、よろしく願いいたします。

佐藤部会長 それでは（仮称）地域活性部会の御報告をさせていただきます。

前回以降、同じく2回の部会を開催いたしました。10月27日に第3回部会を開催しまして、主に若い世代を地域に巻き込む方法などについて話し合いをしました。11月17日に、今度は有志参加で視察ですね。東京都文京区駒込にある空き家を活用した地

域のたまり場の事例なんですけれども、こまじいのうちというものがあまして、その視察を実施いたしました。12月2日には第4回の部会を開催いたしまして、部会で扱う地域課題、審議テーマについて、部会委員で意見交換、絞り込みを図りました。

まず、第3回の会議では、さまざまな意見、話題が出たんですけれども、最終的なまとめとして、若い世代、働く世代、現役世代を巻き込んでいくことが部会の目標として一応設定をされました。ポイントといたしまして、まず働く世代に活気を生むことで地域全体や地域の産業の活性化を狙うこと。とかくボランティアに話が行きがちなんですけれども、全て無償という形ではなくて、一定の収入につながるソーシャルビジネスのような形を目指していくこと、地域への還元や地域とのつながりづくりを意識していくことで、一過性のイベントとならないようにということを考えました。

次です。当初部会では拠点づくりを軸とする議論がありまして、それはさっきの福祉部会のほうでもちょっと話が出たと思うんですけれども、空き家活用やコミュニティカフェの拡大などの意見がこちらでも出されていました。しかし、同時に運営、維持のために資金や担い手の確保が難しいのではないかとか、空き家を活用する場合の税制とか諸制度に関する課題も指摘が出ておりました。

次のページです。その議論を経まして、改めて企画内容や目的から一度考えてみるということになりまして、改めて若い世代の巻き込みを軸に、これはあくまでも軸です。それで検討を進めようということが確認されました。せっかく若造である私のような者が、現役世代の私が部会長を務めさせていただいていることも一つのポイント、決め手になって、こういう方向性になってきているのかなというのはあります。終盤では、そのための課題や企画例について意見交換をいたしました。区内で、例えば作品づくりをしている人に発表や制作の場を与えてはどうかとか、その他の話として、ネットの活用、区内のユニークな企業との連携なども話が出てきました。ボーカロイドとか、ドローンによる空撮であるとか、イラスト投稿サイトがネット内で結構話題になっていますけれども、そういう若い世代に訴求力のある企画についても幾つか意見が出てまいりました。

その次に、さっき、こまじいのうちの話が出ましたけれども、11月17日に有志参加という形で、東京都文京区駒込にある空き家を活用した地域のたまり場、これは福祉部会の御報告でもたまり場の話がありましたけれども、この事例をちょっと1回見てみようという話になりまして、こまじいのうちの視察を実施いたしました。立ち上げの経緯であるとか、組織運営であるとか実施プログラムなど、関係者に直接伺いました。地域の多世代が集い、さまざまな企画が行われていまして、特に子育て世代の若い母親も集まってくる、空き家活用では有名な成功事例です。社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターの尽力、オーナーの地域貢献志向によって成り立っている成功事例の現場を見て、新たな刺激を受けました。これは本当に福祉部会さんのほうにも

情報共有したいぐらい、すごく勉強になりました。

一方で、2階建てになっているんですけども、2階のシェアオフィススペースというものが今準備中なんですけど、補助金に頼らない運営はまだスタートしたばかりという状況で、今後の課題も伺いました。シェアオフィススペースとか、あと何かレンタルボックスとかも始めるらしくて、その辺をお伺いしたかったんですけども、それはこれからという形で、詳しくはお伺いできなかったという状況です。でも、これは本当にすごくいい場だったと思います。

次のページです。第4回会議のまとめです。第4回の会議では、部会テーマ・ターゲットの絞り込みを図りました。最終的に狙いとして設定されたのが、次の3つでございます。

まず、これは再三出てきていますけれども、若い世代をターゲットとすることです。若い世代、具体的にどの辺を狙っていくのか。仮に設定するとして、20代から40代くらいという現役世代を一応設定しております。これまで地域とかかわりが薄く——どうしても現役世代は都内に働きに昼間出てしまう人が多いので、かかわりが薄くて、地域から取りこぼされがちな世代というふうに一応仮定しまして、これらの方々を巻き込むことで新たな可能性が広がるのではないかとというふうに方向づけをしております。

2つ目は、異業種交流会などを通じて地域でお仕事を受注したりとか、自分の作品の発表や販売の場の創出につなげることです。地元での仕事につなげることによって、人と人とのつながりができて、宮前区という地域とのつながりもできていくのではないかとという仮定をしております。将来的には、地域資源の活用や異業種コラボなどにもつながれば理想かなと思っております。

3つ目です。隠れた人材の発掘から、仮にちょっとクラフト市という名前をつけてみているのですが、開催を目指すとおもしろいのではないかなという方向で考えています。区内には、例えば美大、芸大なんかを卒業したんだけど結局——僕もデザイン学校出身なんですけれども、意外とそういう学校はお仕事、就職に直接つながらないで、例えば、女性だったら御結婚されて普通に主婦になっていたりということも結構多かったです。こんなものがつくれるとか、教えられる人材が実はたくさん隠れているんじゃないかと一応これも仮定して考えております。これらの方々を、取組を通じて掘り起こして、そして発表や交流の場として設定しまして、最終的に宮前区らしい、仮にクラフト市のようなものが開催できたらおもしろいのではないかなと考えております。

フォーラムに向けまして、この3つの狙いに基づいた討議も少し出てきました。呼びかけとしては、地域でのお友達づくり、お仕事づくりという、ちょっと漠然とはしてしまうんですけども、アピールしてみてもどうかかなと考えました。具体的な対象

として、例えばものづくりをしている人、何か技術を持っていて教えられる人を集めたいと思っています。現状では、委員のお知り合いの方であるとか、僕の散歩コースにも美術教室がぽんと突然あつたりしますけれども、そういう地域の教室の先生への声かけをやってみるとか、あるいはネットを通じた呼びかけであるとか、あとは、商工会議所なんかの団体など、多様なところに声をかけてみるとか、そういう方法も一応考えられております。

委員の皆様から、いい作家さんを知っていると、近所にいいお店があるよとか、あと、農家でもこういう特色のあるものをつくっていますよというのをちょっと御存じの方がいらっしゃいましたら、ぜひ御紹介をいただけたらなと思っております。身内の方でももちろん構いませんので、その辺の情報を集めたいという段階です。

また、その話の中で、女性を意識して集めてみたらいいんじゃないかなという意見も出ました。子育てで仕事をやめた方とか、趣味の作品づくりなど、女性の参加を得られれば、若い男性のさらなる呼び込みや活性化、担い手確保につながるのではないかという意見も出ております。

ここまでが第3回、第4回部会と、こまじいのうち視察の御報告でございました。以上でございます。

川田委員長 佐藤部会長、ありがとうございました。そして地域活性部会の皆様、本当にお疲れさまでした。

(3)部会審議内容についての質疑応答・意見交換

川田委員長 それでは、両部会の今までの経過報告をさせていただきましたが、これにつきまして委員から質疑応答、また意見交換、それから補足などがございましたら、挙手をお願いいたします。今回の場合は1人ずつは当てませんので、挙手をお願いいたします。どなたかいらっしゃいますか。

砂川委員 例えば「地域で『お友達』『お仕事』づくり」とか「ものづくりしている人、教えられる人を集めよう！」という話ですけれども、うちにぜひ宮前区で、例えば空き店舗の店に協力してもらって編み物教室、そういうものをやってもらえないかと、そういう話もありますよ。例えば囲碁なんかでも市民プラザまで行かないとできないでしょう。できるんですか。区内にあるんですか。今、リタイヤして、仕事が終わって、自分のうちにいらっしゃる方が多いんです。よく話を聞くと、老人会にも行きたくないとか、そういう方もいらっしゃる。だから、そういう方は、そういう話をするんです。

例えば囲碁教室があるといいねと。もちろん近くだけでも。あるいは、御婦人の方からは編み物教室があると、私が先生になってやるわとか、そういう先生がいらっしゃるんです。だから、そういうこともやはり宮前区の地域の安心・安全という意味

で交流を深めていく上では、小さな輪かもしれないけれども、非常に大事だと思うんです。

佐藤部会長 そうですね。

砂川委員 ですから、そういう意味でものづくりではないけれども、編み物なんかは、話を聞いていると、非常に和気あいあいとやっている。帽子をつくったり、手袋をつくったり。

佐藤部会長 お知り合いにもしいらっしゃるのだったら、後で情報をいただければ。

砂川委員 もう喜んで。ですから、そういう非常にやる気のある方がうんといらっしゃるけれども、それが埋もれていて見えないと。

佐藤部会長 そうなんですよね。

砂川委員 まだまだ情報があるけれども、とりあえずこれくらいにしておきたいと思います。

佐藤部会長 どうもありがとうございます。

川田委員長 砂川委員、この課題を捉えた御意見だったと思います。これからそういった方たちをターゲットにして、その方たちでそういった方向に行けばいいなと思っております。活性部会の方たちも一つの意見として伺っておいてください。

青柳副委員長 この中で異業種間交流ですか、非常にいいところに目をつけたなということを感じました。といいますのは、やはり今、各業種の若い世代、あるいは年配を含めて、交流を図ることによって自分たちの環境をもう1度考え直してみようとか、あるいはアイデアをもらえるような場の一つに異業種間交流というものがあまして、フェイスブックも含めて、メディアなんかでは非常に取り上げられています。また、実際自分の仲間の中にはそういうものに参加して、非常に知識として、自分の地域にまた還元できているものがあるという話も伺ったことがあるんです。ですから、その異業種間交流をすることによって、ほかの2つのテーマが入っていますよね。若い世代とかクラフト市、そういうものが枝葉で流れていくような一つの狙いがあるんですね。だから、いいところに目をつけたなと思って、今感心しながら、また自分もそういうことを勉強させていただきたいと思います。

佐藤部会長 ありがとうございます。

川田委員長 貴重な御意見をいただいたと思います。ありがとうございました。

大久保委員 ありがとうございます。情報提供という形になるかと思いますが、この「ものづくりをしている人、教えられる人を集めよう！」という具体的な例が、東京の杉並区に一芸さん登録制度みたいなものがございます。何ができるかということのを区のほうに登録している制度です。私は例えば手品が得意ですとか、あるいは変わった蓄音機を集めています、そういうようなことを登録して、それを区民の方に向けて、例えばデイケアのところであるとか、いろんなところにそういうものを持ち

込んで、手品を見せたり、何かお話をしたりというようなことをされている例があります。これはきっかけがあって、そういう仕組みさえつくれば、割とすぐにでもできるのではないかというふうにひとつ思いました。

それから、これは隣の高津区が、ものづくりではないんですけれども、地域開発に絡めて、地元の不動産業者さんが非常に熱心に地域の掘り起こしみたいなものをおやりになっているケースがございます。たしかエヌアセットという不動産屋さんだったと思いますが、朝市だとか夕市だとかそういうものも含め、かなり熱心におやりになっています。社長さんのお話を伺ったことがあったんですが、地域とそこの企業との密接な関係づくりみたいなものが、時間はかかるけれども、結局企業にとってもプラスになるのだという視点で活動なさっていました。それも何かお役に立つのかなというふうに思いました。

佐藤部会長 エヌアセットさんですね。調べてみます。ありがとうございます。

川田委員長 ありがとうございます。

中村委員 私はお花を教えているんです。今、日本の女性はふだんお花を習ったりするのが本当に少なくなってきました。ただし、お正月は、うれしいことに、どの家庭でもお花を生ける方が非常に多いので、ある町会にことしも45名、次は高津のほうの諏訪に30名とか、毎年声をかけられます。

お正月の花は25、26日ごろから生けても肝心のお正月のときにはもちませんのでね。ざっくばらんに言いますと、私は、ある安い、ちゃんとしたところから仕入れたものをほかの価格よりも安くして、皆さんに教えたりしていますので、非常にもつし、28日に生けたものなんかは、まだもっております。そういう状態なんですけれども、いつもあちこちから声をかけられるんですが、体な一つなもので、非常に困っているんです。何かいい策、いい案がないかなと思ひまして。

そうかといって、お花の先生たちにそれをしちゃうと、単発的なのは嫌という。要するにボランティアみたいな感じだから。やはりお花の先生たちはプライドみたいなものも持っておりますので、単発的なものは嫌という方も多いもので、私はそういう考えはなくて、皆さんにお正月はお花を飾ってもらえればうれしいかなということでやらせてもらっているんです。

日にちも限られて、もつものも限られているという状態を、どのように……。

佐藤部会長 そうですね。先生ということだけでなく、御経験のある方のネットワークがあれば、そこで。

中村委員 そうそう。何かができたらいいかなと。毎年あちこちから本当に声をかけられるんですけれども、何しろ体は1つで、そうかといって、生徒だけを行かすということも自信がございませんので、何かいい案があったら教えていただきたいかなと。ネットでやればいいやというようなことも言われますけどね。

佐藤部会長 そうですね。何かつなげていきたいですね。ありがとうございます。

川田委員長 ありがとうございます。

田辺委員 いつも辛口のコメントなんですけど、またきょうも辛口なんです。

これまで皆さんの御意見を聞いていると、多分1年後にされたらいいような提案がたくさんあって、それぞれいいアイデアかと思えますけれども、私は、今の段階でもうちょっと違う視点から議論を深めていったほうがいいんじゃないかと思えます。

といいますのは、やっぱりそれぞれ2つの部会共通して言えるかと思うんですけれども、課題の掘り下げが不十分だと思うんです。それぞれ課題を抽出して、その問題の本質はどこにあるのかということを検討した上で分析し、そこから初めて方策、施策というものを考えなきゃいけないということだと思うんですけれども、先に商店会のスペースを何か利用できないかとか空き家を使えないかとか、先走っちゃっているような気がするんです。

例えば、じゃ、認知症なら認知症という場合に、認知症の方の生活の場にどんな状況が起こっているのか、あるいは単純に子どもを対象とした取組とかというふうに書かれていますけれども、子どもの貧困なら子どもの貧困という場にどういった家庭でどんな問題が起こっていて、そこを掘り下げた上で、初めていろいろな方策を考えるのが筋じゃないかと思うんです。そういう物事の考え方を築き上げることで、ある程度体系的なものが見えてきて、その上で方策が出てくると思うので、まだ1年以上あるので、十分時間はあると思いますので、もう1度、改めて2つの部会とも本当に課題をもうちょっと絞り込んで掘り下げる必要があるんじゃないかなと思います。

黒澤委員 同感です。

川田委員長 ありがとうございます。どうしましても2年という期限があります。皆さんおわかりになっての討議をしまりました。いろんな意見がありましたので、なかなかそれを1つにするのは本当に難しいことでした。それで皆さんも御苦労されました。実際問題、3月にフォーラムを開く。そして、そこで各部会でこういった方向でやっていこうというところで開くことになっております。今、福祉部会では3つのお話が出てきましたけれども、それに対してどなたかを呼ぶのか、それとも例えば認知症サポーター養成講座をやるのか、そういったものをフォーラムの中で出して、そこから次の部会できちっと方向性を決めていく。ですので、今、福祉部会とか活性部会と言っていますが、これはまだ仮称でございます。というのは、まだまだ決められませんので、これはとりあえず、とにかくフォーラムまで、期限が膨大にあればいいのですけれども限られておりますので、そのところは前後してしまう。

田辺委員は一括して、やはり道筋というのをおっしゃってございましたけれども、どうしても期限的なものがありまして前後してしまいます。でも、そのところはちゃ

んと捉えなければいけないと思いますので、フォーラムが終わった後にもう1度皆さん方で本当に何をするのかということを引き出していただく。それからすぐにとにかく実行していかないと、1年しかありませんので、1年といたって皆さん集まるのがそんなに何回もあるわけではありませんので、とりあえず区役所に提案できるぐらいにしていかなければいけませんので、なるべく、フォーラムの終わった最初の部会でもきちっと決めて、全員で取り組んでいければいいなと思っております。ですので、それを考えるためのフォーラムというふうに考えていただいてもいいのかなと思っておりますので、そのようにお願いいたします。

ほかに何かございますか。——ないようでしたら、本日も参加の方が3名いらしています。社会福祉法人などは、これから地域貢献をなさいよということが法律化されたというふうに伺っております。そうすると、結構場なんかでも広がっていくのかなというふうに思っております。矢沢参加、持田参加、今、報告のほうは聞いていただけたと思いますので、それも踏まえまして、何か御意見がありましたらお聞かせください。まず、矢沢参加からお願いいたします。

矢沢参加 はい、わかりました。両部会とも、本当に真剣な議論をしていただいたことをまず感謝申し上げたいと思います。また、委員長おっしゃったとおり、熱意を持たれた方々が集まって話をすると、1つにまとめるというのは非常に大変なことだと日々感じておりますので、その部分に関してもこれから時間をかけて、意見を少しずつ集束して行って、まとまった形になればと思っております。

今、両部会のお話を聞かせていただきまして、私が、あっこれとは思ったのは、やはり民間企業に協力を依頼していくという観点は非常に注目すべきところなのかなと思っております。

ちょっと話は異なるんですけども、横浜では、今、コンビニが非常に増えてきて、コンビニの中にさらにイトインをするコンビニも増えてきています。コンビニに来る方も多いので、近くにバス停がある場合に、イトインのあるコンビニの中にバス停の液晶パネルを設けて、コンビニにいながら近くのバス停にいつバスが来るかわかる。雨が降ってバス停だとぬれてしまうとか、さまざまな状況がある中で、コンビニで過ごすことができる。こういったところも、行政と民間の協働作業なわけですけども、市民の中からアイデアが出たというふうに話を聞いています。

このマクドナルドの店舗を活用したスペースの活用も、マクドナルド自体がキッズスペースを設けているところもまだまだ数はそんなに多くはないのかなという気がしますけれども、企業としてもCSR、地域貢献活動は非常に大事なものですから、そういった観点に注目されている点はすばらしいなと感じました。

そして、若い世代を地域に巻き込むというところなんですけれども、商店を活用するというので、先ほど田辺委員のお話もありましたが、確かに課題を深掘って、な

ぜそういったことをする必要があるのでかというところもしっかりとやっていかないと、その商店を巻き込む際に、非常にあやふやな、明確になっていない目的意識だと御迷惑をかけてしまうケースも多々ございますので、注意が必要だと思います。例えば蔵敷には夜しかやっていない居酒屋がある。そうすると、昼間、ママさんたちがちょっとランチをしながら、その商店に集まって、お困り事何でも相談会みたいなものを行っている店舗も幾つかあります。それもママさんたちのリーダー的な人が直接その商店とのかかわり合いを持って話を進めているケースなんですけれども、そういった地域の日ごろからのつながりの中で生まれていくケースもたくさんあるかと思いません。若い世代を地域に巻き込むという意味では、商店の活用もいいことなのかなというふうに感じている次第でございます。

ものづくりをしている人、教えられる人を集めようというところは、結構私もいろいろと宮前区内の一芸さんを存じ上げておりますので、後ほど情報提供ができればと思っております。ありがとうございます。

佐藤部会長 ぜひ、ぜひお願いします。ありがとうございます。

川田委員長 ありがとうございます。心強い言葉をいただいて、よかったですね。

それでは、持田参与、お願いいたします。

持田参与 おめでとうございます。また、お疲れさまでございます。こうして毎回審議を重ねていただきながら、よりよい地域づくりにとということで皆さん御貢献をいただいております。心から感謝申し上げたいと思います。

先ほど私も、ちょっと途中からで失礼してしまったんですけれども、地域見守りとかそういう課題も出ておりました。そういう中で、世代を超えてということで、ふと私は一番先に、みずからの小学校時代を思い起こしました。小学校への道の行きすがら、近所の、当時としたら若奥さんなんですけれども、もう私たちの世代になったときはおばあちゃんなんですけれども、そういう方々が、朝、自分の家の前を掃き掃除されながら、「おはよう」「おはようございます」と声をかけていただけた。そして、帰りには「どこの子どもさんだよ」とまた声をかけていただいて、それがすごく私たちはうれしかったというのを思い起こします。そういうことで、どこが地域の見守りということはないんですけれども、御家庭の中で御高齢の方々がたくさんいらっしゃる御家庭もございます。ですから、例えば老人会の皆さんとタイアップしていただくとか、いろんな形の中で子どもさんと御老人、あるいは中間世代、こうした方々がもっと密接につながるができるような一言の会話から始まるのではないのかなと、そんなようなことをふと思い起こさせていただきました。

そして、前にちょっとお話しさせていただいたかなと思いますけれども、昨年でしたが、黒岩知事にです。馬絹の花弁栽培、3月3日、ひな祭りに合わせて、露地の桃の花ですとまだまだつぼみで咲いてこない。これを早目に枝を切って、昔は室の中に

入れて、早目に花を咲かせて市場出荷した。これも一つの技術であります。それをやるには、取ってきた枝を枝折らなくてはいけないんですね。それを大きな束にして、室の中に、農家の方々は、そこを階段的に、階段といっても赤土です。室は下にあって、そこを担いでおいて、水のおけにつけておいて、3日なり4日なり5日なり置いて、市場出荷をした。その現場を黒岩知事に去年見ていただきました。そうしましたら、ちょうどこのところの10日の日でありましたけれども、ある団体の席で知事が、川崎というのは最先端技術ばかり、あるいは工業のまち、こういうイメージですけども、そうでないですよと。こういう農家の方々が、今でもその技術をしっかりとやられている、こういう話をされました。

ですから、私は現場を見ていただくトップの方々がトップセールスではないですけども、トップPRではないですけども、していただくことによって、そのやっている方々の輪も当然広がりますし、やる気も出てくるということで、せっかく区のこうした区民会議であります。何か少し、でき上がったものについて区長さんからアピールしていただくとかPRですね、そういうこともひとつ大事なかなと。何度か会議が重なって、今6期ということですので、そういう点も思います。

それから、将来的なことを思いますと、ちょっと議題からまた外れますけれども、鷺沼駅が今度は新しい鷺沼駅にということで、ようやく市議会の中でも説明があったようであります。もう田園都市線が開通してちょうど50年、昭和41年でありましたから、駅舎も新しくということで今進んでおります。少しのガイドラインの図面が出てまいりました。ですから、そういったことも、この会議がどうこうでないのですけれども、地域の中で皆さん方が利用されているこの鷺沼駅、よりこんな形であったらいいなというものも、これからそれぞれのお立場の中で、地域の中、あるいは区の行政、また私どもにもおつながりいただければなとも思っております。

等々、いろいろなことをまだお話しさせていただきたいのですけれども、時間も余りないようであります。あと、鷺沼駅のことなのですけれども、鷺沼駅は、今、改札口を通らないと南側から北口へ行かれませんか。PASMOでは入ることができるのですけれども、出ることができません。私もそんな経験がございました。PASMOは入場券にはなりません。PASMOで出るときはしっかりと駅員さんに言って、それでないと出られないんです。それを今度、自由通路をつくらうということで、改札に関係なく線路の南側と北側を行き来ができる、こういう状況ができてまいります。

等々、利便性は非常に豊かになるかなと思いますけれども、せっかく再構築されるわけありますから、鷺沼駅等々も、今まで50年間であのようなスタイルでした。バス停も今までは4カ所、今度8カ所に増やそうということで、当然バス路線はどこが必要なということも出てまいりますので、そういったこともまたお伝えいただけれ

ばなと思います。よりよい形の中で、今後50年を見据えた中で、また駅もリニューアルしていかななくてはいけないのかなと思いますので、そういった点もよろしく皆様方で、この場でなくても結構です。いろいろな場面で皆様方が御活躍でありますから、お伝えをいただければなとも思っております。大変失礼いたしました。

川田委員長 ありがとうございます。

それでは、本当に御多忙中申しわけありませんでした。渡辺参与、両方の部会の報告をお聞きいただくことができませんでしたが、何かございましたらば、どうぞアドバイスなり、お願いいたします。

渡辺参与 すみません、きょうは遅くなりまして失礼いたしました。きょうは川崎区のほうで、通信設備というところの賀詞交歓会なんですけれども、例えば防犯カメラとか消火器とか、地域の企業の方が集まった賀詞交歓会だったんです。お話ししていて皆さんすごく勉強熱心で、毎年研究会とか学習会をしていらっしゃって、すごいなと思ったんですけれども、先ほども異業種交流とかという話もあって、ぜひこういう皆さんと意見交換したらおもしろいんじゃないかなと思いつつ聞いていました。

あと、私がきょうここにたどり着いたときには、砂川委員から空き店舗の活用のお話が出ていまして、空き店舗だと例えばデイサービスとか子どもの居場所とかという使い方をしていたんですけれども、今ややっぱり空き店舗は、店舗として、商店として活用したいと、市のほうでそういう考えを持っているみたいで、なかなか難しいなどというのがあるんですけれども、空き店舗ではなくても、地域の居場所とかを活用できればいいかなと、聞いていて思いました。

それと、子どもを対象とした取組のところでは、この1月から、子どもの貧困というタイトルにはしていませんけれども、子どもの生活調査みたいな形でアンケート調査が今始まっております。3月末にはまとまってくるということですので、またこうしたことも皆さんにお伝えできればなとも思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

川田委員長 どうもありがとうございます。参与の方たちだから聞ける情報というものをこの場でいただけるので、いつもありがたいと思っています。また今後ともよろしくお願いいたします。

持田参与 もう1点よろしいですか。

川田委員長 はい、どうぞ。

持田参与 ごめんなさい。時間のないところをすみません。前回私、失礼してしまったんですけれども、前回の議事録にちょっと目を通させていただきましたら、神社の話が大分出ておりましたね。祭礼のことしかりかなと思うんですが、実は、宮前区の中で大きな神社は8カ所ほどございます。私、毎年、議員としてお世話になってからは、12時を過ぎますと8カ所、22年、23年になりますか、回っているんです。夜中の3時

ごろになってしまうんですが、回っていますと、みんな同じような神社のように思えるんですけども、それぞれ特色があります。中村さんのお話にもあったかなと思いますけれども、馬絹の皆さん。

ことし馬絹はこういうことをされているんですね。いつも神社というのは鈴を鳴らさせていただいて、お賽銭を納めて、二礼二拍一拝ですけども、鈴の布を脇にはねてしまっているんです。鈴は鳴らさない。それはどうしてかなと思うと、お聞きしましたら、大勢列をなしますので、なるべく時間を端的にということのようでありませう。主催されている方々も、神社の氏子会の皆さんから、今、若者がという話でしたけれども、馬絹さんは若い方々がお札を売っていられるんですね。神社によって全く違う。菅生神社へ行きますと、太鼓連があつて、神輿連もあり、そして氏子会の皆さんもいてということで、それぞれの組織がそれぞれの部署を担当されながらやられる。

有馬の神明神社へ参りますと、何とここが横浜の方々がたくさん来られるんですね。なぜかといいますと、横浜の都筑区の神社は南山田です。ですから、すみれが丘の方々は十分遠いんですね。それで鷺沼からバスで神明社前というバス停がありますから、そこから近いから、来ていただけるんですね。催しを少ししっかりとやりますと、そういう方々が十分多くみえる。最初は私たちも青年会ということで、有馬の神社で、まず近所の人たちが、初参りに一斗缶で火を燃していたんです。それが大きな火の燃え方になって、そういう準備をさせていただいて、我々青年会活動のときに、お祭りの神輿も昭和47年からでしたし、決して若者が何もしないのではなくて、何かきっかけがあると若者は率先してやる。若者が火をつけて、逆に氏子会の皆様方が後から後押しをする、こういう場面もたくさんございます。

何か若者のエネルギーが発散できるという失礼ですけども、エネルギーが投入できるような場面づくりをすることによって、若者は本当に一直線で何でもやろうという気持ちはお持ちですので、それが何なのかということも少しターゲットに絞り込んでいくのも大事かなと思っております。駄弁を弄しました。

川田委員長 ありがとうございます。

3名の参与の方たちの御意見は、2つの部会に取り入れられるものがたくさんあったと思います。本当にありがとうございました。

それでは、御意見などほかにもございませんようですので、補足もございませんね。それでは先に進ませていただきます。

(4) 区民フォーラムの企画について

川田委員長 先ほどから何回も出ていますフォーラムのことです。このフォーラムの企画案につきまして、コンサルの岩下さんから説明を伺いたいと思います。

事務局（岩下） それでは、皆さん、資料5をごらんいただけますでしょうか。区民会議フォーラムについて、こちらの資料に概要を書いています。

まず、目的を改めて確認させていただきますと、こちらにあるとおり、第6期区民会議のこれまでの審議経過を報告して、区内にできるだけ広めていくということがまず目的としてあります。それから、今後の審議がより速やかに進むように、ちょっと学ぶ場ですとか、参加いただいた区民の方から意見やアイデア等を伺って、今後の検討に弾みをつける場として考えたいと思います。

まだ両部会、テーマが絞り切れていない、深掘りできていないんじゃないかというところもあるかもしれませんが、いつも同じメンバーでずうっと話しているだけではなくて、ここらで1回区民の方と、第三者等も交えて話す場として、貴重な場として考えていただいてもいいのかなと思います。この場について、先日の企画部会、委員長、両副委員長、両部会長に御参加いただきまして検討した結果がこの資料5になります。

それで、日程ですけれども、各委員さんに事前に候補としてお知らせいただいた日程の中から事務局や企画部会のメンバー等で調整させていただいて、1点この日ということで、申しわけないんですが、3月11日土曜日の午前中で開催できればと考えております。これは特に大きな反対とか大部分の方がだめでない限りは、この日程ということでお願いできればと思います。

会場ですが、区役所4階の、きょうは違いますけれども、いつも全体会で使っている大会議室、それから向かい側の第4会議室も、この日程であれば確保できているということです。

それで、全体の企画をまだラフですが考えたところで、きょう御意見をこれから伺いたいと思います。

大まかな枠を全体で考えておりますが、時間帯は11日土曜日の午前中、10時から12時半、2時間半程度ということで、お昼には終わるという形で設定をしております。こちらに全体の枠の表を書いています。

簡単に言いますと、全体会、まず全員で大きな会議室に集まって、趣旨の説明ですとかをさせていただく。

それから2つのテーマ、それぞれの部会に分かれて90分で部会ごとに企画を進めるほうがいだろうということになっております。それぞれ部会の案を考えたところで、その内容については次ページ以降になるんですが、両部会長さんからこの後発表いただきたいと思います。

その後、休憩を挟んで、再び全体で集まって、お互いの進捗を確認し合ったり、区民会議全体の紹介をさせていただいて、12時半に解散ということです。

あと、全体会の中で出た意見としては、休憩・移動時間中には何かちょっとパフォ

ーマンス、過去にも例があるのですけれども、音楽のパフォーマンス等があってもいいかなですとか、お茶菓子等がちょっと出せるといいねと。多少予算はありますので、そんなに潤沢ではないのですが、討議のネタともなるような、例えば活性部会でこんなお菓子や、こんな産物があるんですよというようなものも提供できるといいよねという意見が企画部会から出たところです。

企画の細かい進め方については、2月にもう1回ずつ専門部会がありまして多少話し合う場はあるのですが、全体の大枠については、きょう皆さんでこの日程で行こうということで決めさせていただいて、区民会議だよりですとか市政だより等の広報を考えますと、広報等についてはこの後すぐ始めるという形で進めていければと考えております。

次のページにあります両部会の企画案については部会長さんから、両部会の討議結果として発表をお願いできればと思います。

私のほうからは以上です。

川田委員長 ありがとうございます。

フォーラムにつきましては、2月に各部会1回打ち合わせなどがございますので、そこでもまた議論していただくことができますので、とりあえず今報告ということですので。それでは、地域福祉部会の中里部会長からお願いします。

中里部会長 それでは、先日の企画部会で検討しました地域福祉部会の、このタイムテーブルで言いますと真ん中の90分間の分科会の企画案を説明させていただきます。

次の2ページをごらんいただきたいと思います。主な内容としましては、認知症サポーター養成講座の開催、認知症対応事例や現状の取組紹介ということを企画しました。先ほど田辺委員からも、もうちょっと掘り下げたほうがいいんじゃないかという意見もありましたけれども、そこまで掘り下げられるかどうかはわかりませんが、その取っかかりとして、こういう内容で開催したいと考えております。

先ほどの部会の審議の経過報告の中で説明させていただきましたけれども、テーマが3つ絞られていたのですが、今回のフォーラムでは、その中から特に認知症の理解、地域支援の促進という題材を取り上げようかなと思いました。ほかには、企業や店舗のスペースの活用、子どもを対象とした取組という2つもテーマとしてありましたけれども、今回はそれにもつなげていくような可能性を考えながら、企画案として考えてみました。

仮の案として、「多世代による地域支え合い ～認知症サポートから考える」というタイトルで行いたいと考えております。

まず、区民会議委員みずからが認知症をめぐる現状や適切な対応等を学びまして、理解を深めること。それから、コンビニや商店街の関係者、子ども世代とともに、地域全体で相互の見守りや支え合いをつなげる目的として、このフォーラムをやっている

きたいなという方向性で考えてみました。

具体的な内容ですが、まずコンビニのCSR（地域貢献活動）担当者から実際の店舗で起きた認知症対応の事例や現状の取組についてもお伺いしたいと考えています。宮前区内にはセブン-イレブンが30店舗、ローソンが17店舗、ファミリーマートが12店舗あるそうですけれども、これらの業者や社員、店員の方に参加をお願いして、このフォーラムに参加していただきたいと考えております。

今回、川崎市と包括連携協定のあるセブン-イレブンにつきましては事前に打診をしていただいています、この企画を実施する場合についてはおおむね協力していただけるというふうな内諾を得ていると報告を得ております。

次に、区民会議委員と参加者とともに認知症サポーター養成講座を受講していただくわけですけれども、認知症サポーターを増やすキャンペーンが全国で進められています。この一環として、参加者には受講終了のあかしとしましてオレンジのリストバンドが配られるシステムになっているのですけれども、講師の調整、内容の調整をしながら、ここでもそのリストバンドをもらえるような形にしたいと考えております。かわさき記念病院さんに協力をお願いする予定で、これも内諾を得ております。先ほど話したオレンジのリストバンド、職員の方もたくさんつけているこのバンドがもらえるということで、こういう輪を広げていこうということです。

次に、参加の呼びかけについてですが、地域の教育会議や校長会を通じまして、区内の中学生に依頼したり、あるいは商店街連合会等にも依頼をして、多様な世代、背景を持つ参加者を集めることを目指しております。それから、一方的な講義ではなくて、参加者同士が意見交換をしたり、地域で何ができるか話し合いなど、その後の取組の提案につなげる形で進めていきたいと考えています。

それから、認知症サポーター養成講座は、これまでも区内のさまざまな場所で開催されていますが、地域の企業の参加の例とか、多様な参加者が混ざって、若い人とか年配の人とかが混ざった立場での話し合いという例は、ほとんどなかったように思います。ぜひ、こういった多世代の交流も含めた中で、実現をさせていただきたいと考えております。

以上です。

川田委員長 ありがとうございます。それでは、地域活性部会の佐藤部会長、お願いいたします。

佐藤部会長 では、資料の3ページです。続きまして、地域活性部会のほうから、さっきの表の真ん中ですね。90分の分科会の企画案を御説明させていただきます。

主な内容が、区内の技術を持つ人たちの出会いと交流、意見交換の場というものをつくってみようということでございます。技術を持つ人とは、何かをつくっている人とか教えられる人と一応捉えています。今回は特に若い世代、先ほどから出ています

20代から40代くらいの現役世代を集めることを目指しまして、その人たちが地域でそういう人たち同士のお友達の輪を広げたり、何かそこからお仕事につなげるようなことをテーマとしてみたいと考えております。

以上のことから、仮のタイトルとして「地域で『お友達』『お仕事』探し」というものをつけてみております。

部会の最終的な目標、取組案の一つとして出された言葉が市場で、大分前の部会から出ているんですけれども、具体的に言うと宮前区のクラフト市、さっきも出ていますけれども、その開催についても、今回フォーラムへ参加してくださる皆さんから意見やアイデアが聞ければいいのではないかというふうにも考えております。

具体的な内容ですけれども、ビジネス交流会のような出会いの場をイメージして、参加者相互の自己紹介をしてみるというのをちょっと考えております。それぞれ自分の技術であるとか特技、作品をつくっている方は作品、知識がある方は知識、あとは地元で商売している方は商売の内容なんかを発表し合いまして、交流してみてもどうかということです。

次に、地域でお友達の輪を広げるには、あるいはお仕事につなげるにはというのをテーマに意見交換ができればいいかなと思っております。意見交換については、例えば宮前区の特産のお土産づくりの企画を、それぞれの特技を生かせる方法で考えてみられると、一つの仮のアイデアとして、いいかもしれないと考えております。

また、話し合いをより進めやすくして、参加のヒントとするために、誰か講師をお招きして、作品づくりや発表、商売や商品開発のノウハウなどの成功体験を伺ってみるのもひとつおもしろいかなと思っております。

講師のお話の内容の例として今考えられているのは、前期、5期の委員さんで、僕をそもそもこの区民会議に呼んでくださった方なのですけれども、さぎ沼商店会の佐々木良司さんという方がいらっしゃるのですが、地域の商店、さぎ沼商店会の特技を生かしたまちゼミという取組がありまして、その辺についても伺ってみたり、あとは市内の著名な作家——前の部会でもそういう著名な作家さんがいるよという報告が上がってきています。市内の著名な作家さんであったり、あるいはビジネス交流会の主催者さんもおられるようですので、そういう方にコンタクトをとって見て、お話ししてみても依頼するなど一つの案として考えております。

この企画の味噌、ポイント、成功の鍵を握るのはやっぱり参加者集め。どんな参加者が集まってくくださるかがかなり重要なんですけれども、一般的に広く呼びかけるだけでなく、今のところこれが一番ポイントだと思うんですけれども、委員さんのつてですね。あとは事務局などで個人に直接声をかけて参加者を確保する必要があると考えております。ここはやっぱりかなり味噌、重要ですよ。これまでまちづくりに余りかかわる機会が少なかった人、特に女性などを意識して、まずは一人でも多く集

めていきたいなという状況でございます。

部会でも話題がさんざん出ているのですけれども、農業ですね。クラフト市という仮の言葉が出ているので、最初から出ていた農業という言葉が脇に行きがちなんですけれども、農業の関係者であるとか、あるいは地域で何かの教室をしている人などにも声をかけたいと思っております。部会では、商工会議所、青年会議所、商店会などの団体ですとか、あるいは福祉農園のはぐるま農園という名前が挙がっています。結構具体的な候補も結構出てきていますので、この辺を声かけの候補に考えております。

この企画をもし実施するのであれば、やっぱり特に委員の皆さんからの声かけ対象について御紹介、先ほども早くもこういう方がいらっしゃるみたいな感じのお声が上がっているので、アイデアをいろいろいただいて、お助けいただきたいというところなんです。一応目標というか、区民会議委員に加えて、僕も一応イラストオペレーターですの出るつもりなんですけれども、少なくとも10名くらいは集めたいかなというのが一応の目安として思っております。

フォーラムの企画案に関しまして、活性部会からの報告は以上でございます。

川田委員長 ありがとうございます。

3月11日のフォーラム内容につきまして、企画部会から御提案させていただきます。これにつきまして、委員の方々、何か御意見、質問がございましたら挙手をお願いいたします。

黒澤委員 2ページの地域福祉部会の企画案の中でのフォーラム後の方向性の中で、例として「子ども世代対象とした養成講座の開催の推進など」、ここに書いてある中身をどういう形で方向づけというのかな。これは稗原ゆ〜ず連絡会を委員長がやっている。要するに、こういう認知症の方向性は、稗原ゆ〜ず連絡会が7自治会と6団体が、外郭団体があるんです。そこのグループで認知症講座というのをずうっと持っているという形なんだけれども、この子ども世代を対象としたというのは新しい発想なんです。これはどういう方向性なのかなと。この中で、コンビニや商店会が認知症対策とあるよね。ここで抜けているのは地域の団体である自治会、これが宮前区の中でも結構やっているんですよ、もう御存じだと思うけれども、というところ。それが1つね。

それからもう1つ、次の3ページ、佐藤さん、我々話したことはなかったかな。この内容の中の例で、さぎ沼商店会、これはいいよね。ビジネスの交流会、こういうのを話したけれども、宮前区役所としていろいろやっているんじゃないの。具体的にはよくわからないよ。ただ、市民館なんかで何かの発表会とか学習会だとかそういうことも集めると、たくさん応募者がいるよと、そんな会話をしたと思うんだよね。

佐藤部会長 はい。

黒澤委員 だから、区役所、行政サイドでの情報というのかな、そういう特技を持っているようなデータがあるんじゃないかなと、それがちょっと抜けているような感じがするんですけどね。

佐藤部会長 なるほど。はい。

中里部会長 では、最初の認知症サポーター養成講座の件ですけれども、部会の中でその講座を開いた実績表というものが提示されまして、その中で各自治会とかは結構多かったんです。何か抜けているところはないかなと、ずうっと見ていくと、企業がなかったり、あと子ども対象がなかったりするようなことがあって、自治会は大事だということでわかっているんですけども、それはもうやられているということで、実績があったもので、ちょっと抜けたということです。

黒澤委員 だから書いていなかったと。

中里部会長 それと、もう1つ、小学校、中学校、子どもを対象ということです。私も認知症サポーター養成講座を受けたんですけども、そのときにいろんな事例とかを発表されたりして、私が聞いたのは、コンビニエンスストアの駐車場にちょっと行動が変なお年寄りがいるということで、コンビニの店員さんも、ずっといるみたいだねということは一応認識していたと。そこの近くに、この講座を受けた人が通りかかって、おかしいから、きっとこれは認知症じゃないのかということで、その人が地域包括支援センターに連絡をしたと。それでコンビニの店員さんにも連絡をしたんですけども。そういうことから、コンビニにもいろんな人が来ますので、店員さんもそういうサポーター講座を受けたほうがいいのではないかという発想から、そういうことになったわけです。

コンビニというのは、子どもたちの通学の中で子ども110番という役割も担っているわけですね。子どもも認知症のお年寄りを発見というか、見たときに、こういう症状をした人は認知症なんだよということがわかっていれば、地域のコンビニであり、地域の方であり、そういう人たちと連携を組んで報告ができたり、防止ができたりするんじゃないかということで、子ども世代へも広げようじゃないかと、そんな考えからいたしました。

黒澤委員 わかりました。参考になりました。ありがとうございました。

川田委員長 よろしいですか。ありがとうございました。

老門（泰）委員 ちょっとよろしいですか。今の認知症サポーターの件ですけれども、フォーラムでサポーター講座をやるということですか。

中里部会長 はい。

老門（泰）委員 私どもの、例えば社協とか地区社協で、しゃかりきに認知症サポーター研修をやっています、今、小学校もスタートしていますし、中学生にもサポーター研修をやっているということで、むしろ、先ほど来出ているコンビニさんの場合は

独立店舗なものだから、参加を要請しても、パートの店員さんはなかなか出てこない。セブン-イレブンだったら、何か上の組織からやっていかないといけないんじゃないかなと思いました。どちらかというと、フォーラムでは認知症の方が具体的に、例えばお店でどういうことがあって、どういう対応をしたとか、何かマクロな事例の検討会的なものが、個人的な意見では、よろしいんじゃないかなという感じがします。

サポーター研修というと、何かテキストがあって、最後にオレンジリングをもらって、はい、それでおしまいよみたいな感じで、なかなか込み入った議論は普通余りしないですね。それをあえてしようということで、もちろん研修と同時にそれをやるということですが、研修ではちょっと時間がかかるので、まちなかで起こっている出来事を、まちとしてどうしていこうかという方向性を皆さんの議論の中から集めるようなものが、あるいはいいんじゃないかなという気はします。あくまで個人的な意見ですが、

黒澤委員 全く同感でして、まさにそういう課題があるんです。認知症の対応、講座をやってからどうやってフォローアップするか。川田会長はよく知っているけれども、うちの自治会ではハートの会というので、75歳以上でひとり暮らしをしている人を月1回集めるんです。そして、それをフォローアップするんです。そのフォローアップの仕方が、鷲ヶ峯地域包括支援センターというのが私どもの自治会のところをコントロールしてくれているわけね。そことつながっている。そこと情報交換して、何かおかしいぞといったら電話をする。菅生台サロンだとかハートの会に必ず来てもらう。こういう形でフォローアップしているんです。だから、そういうところの詰めかね。その中で子どもを入れるという発想がおもしろいなと思うよね。世代間交流みたいな形で子どもを入れられる方向性、これをやれたら、とってもいいね。

川田委員長 ありがとうございます。

お手元の2ページですが、**「開催に向けた準備」**というところで、セブン-イレブン・ジャパン担当者の方が、コンビニでの事例とか現状の紹介ということの派遣も可能ですよとありますが、これは事務局のほうで御説明願えますでしょうか。

事務局（小西） はい。私のほうで調整させていただいたのですが、フォーラムでこういうことをもしやると決まった場合には、コンビニのほうでもそういった認知症の方への対応事例といったものがいろいろと蓄積があるということで、その紹介といったことを、パネルディスカッションなのかどういう形なのかはまだわかりませんが、担当者を派遣して紹介することはできますというお話はいただいています。

川田委員長 それを加える方向で企画部会のほうでも話し合われました。

事務局（小西） そうですね。

川田委員長 認知症サポーター養成講座、リングをいただくには時間もありませんけれど

も、ある程度、来てくださった受講生の方たちにはやはりリングを差し上げて、意識を持っていただきたいということがあります。それに加えて、現場でそういった対応をしている方のお話も伺うというふうにしております。コンビニにはいろんな異年齢の方たちが集いますので、そこに子どもさんたちも来ます。子どもさんがまちで、ちょっと違うんじゃないか、ちょっと話に聞いたような認知症状が見えるなどといったときに、例えばコンビニに飛び込んで、ちょっとというふうに言えるのかな。そういう面で、子どもさんも加えたらいいんじゃないかなということで、こちらを御提案させていただいております。

影山副委員長 ちょっといいですか。では、私も一言。この3ページで、地域活性部会の中でここに書いていなかったんじゃないかと思うんですけども、やっぱりビジネスのネタなりなんなりを具体化していく上では、まずそれにかかわった人のいわゆるシーズを探るとというのが大前提です。それをフォーラムでやるということでした。問題は、この人たちは思い入れはあるんだけど、本当にこのものが市場化するかどうかとか、万人受けするかどうかという視点が出てきます。それはアンケートなり、消費者の座談会なり、また同じ主婦の人なりというようなことをいずれどこかの時点でチェックする必要があるなど。以上でございます。

川田委員長 ありがとうございます。企画部会の提案の補足として受けとめていただければと思っております。

ほかに何かございますか。

田辺委員 意見というよりも質問というか、心配事というか、この2つとも、企画としてはとてもいいと思うんですけども、地域活性部会の企画案ですが、質問というか確認なんですけれども、この目的の2つ目で「若い世代（=20～40代の現役世代）が地域で」云々と書いてあるんですが、ターゲットというか、このフォーラムをやることによって、20代から40代の若い世代の人たちが友達とかお仕事をできるようにという趣旨なんですよ。

佐藤部会長 はい。

田辺委員 これ、私、正直言って困ったなと思っているのは、私どもまちづくり協議会でも、いつもこの20代から40代を取り込めないのが悩みの種なんです。今回のフォーラムについても、いろんな区民会議の委員のついでで人を集めるということなんですけれども、私もいろんな人は知っているんですが、この20代から40代が一番難しいんですよ。それは本当にアイデアとしては悪くないんですが、困ったなというのが正直なところなんですよ。

それともう1つ、じゃ、別に60代～70代の人だけが集まってもいいんじゃないかという考え方もあるんですけども、60代～70代の方は20代～40代の方が何を考えているかわからないですよ。何をしたら、どんなプログラムをつくったら、20代～40代を

呼び込めるか。クラフト市とかと書いてあるけれども、どんなプログラムとかイベントでもいいんだけど、それは60代～70代の方はアイデアが出ないんですよ。そこはだから、僕は心配事というか、悩ましいなと正直思っています。

もちろん60代～70代じゃなくて若い方もこの中にいらっしゃるんですけど、どうやって20代～40代を集めるということが非常に不安だし、集めたところで、集まったメンバーが60代～70代だとすれば、我々の専門部会で20代～40代の活性化とか、地域に巻き込むということが書いてあるのとマッチしないですし、心配なことなんですよね。

佐藤部会長 確かにそうですね。さっき、黒澤さんもおっしゃっていたんですけど、僕も事務局さんに質問したいんですけど、そういう何か特技を持った方のデータベースみたいなものがあるかどうか、わかりますか。存在するかどうか。

事務局（高石） 区としてオフィシャルにはないんですけど、我々も今までいろいろやってきた中でのとつてみたいなのが全くないわけではないけれども、先ほどちょっと事例的に出ていた杉並区のようなものは実はなかったりとかするんです。まあ、御協力できる部分があれば……。

佐藤部会長 では、公的にはないということですね。

黒澤委員 そうみたいね。ただね、宮前市民館の菅生分館というのがあって。あそこで、例えばお花の先生であるとか、何か地域の方が自分の得意なものを誰かに教えたい、そういう方は登録してくださいということで、菅生分館にたくさんありますよ。英語だとか、折り紙だとか、そういうものもいっぱいありますよ。それを菅生分館に聞いてください。そうすると、データがあるはずですよ。

事務局（高石） 今回、ちょっとターゲットとなるべき人たちというのが、これは活性化部会の当初からのお話だったと思うんですけど、今までのボランティアとか無報酬とかでやるのではなくて、ある程度のインセンティブの中で地域を活性化していこう、それで得たもので地域還元していこうというのがキーになっているので、今回のビジネスマッチングじゃないですけども、B to Bじゃないですけども、割とターゲットは若いところにプロットしているというところがあります。そうなってくると、そこで出てくるいろんな技術を持っている人、手に職を持っている人というのはどういったものがあるのだろうかというので、事例紹介でボーカロイドとかドローンとか、いろんなものが出てきたりしました。そういった中で、なかなか実際どんな人がいるんだろうなというのは、確かに悩ましいところはあるんですけど、そこは一緒に考えていきたいと。

川田委員長 そうですね。そういった隠された人材の発掘をするというのがこの狙いではありますので、例えば行政のほうで持っている情報をもらいましょうということじゃなくて、やはり個人的にも知っている方とか。私も実はきょう1人、ちょっとこの方

はと思った方に声をかけたんです。その方は、40代でお子さんが小さいのでお仕事もできない。だけれども、自分の特技を生かして教える教室みたいなものを月に1回か何か、お店を借りてやっているんですが、とても喜んでいました。そして、そういったことがもっと広まっていけばいいということでした。それで、やっていることが違って、同じような立場で活動している人たちとも知り合いになりたいということがありますので、そうやって個々でやっている方たちになるべく声をかける。

さっき、矢沢参与もいろいろ情報をお持ちだというふうにおっしゃっておいりました。一芸さん、言葉だけではなく、ぜひ御紹介をいただきたいなと思っております。これは行政のほうでも本当に知りたいなというところではないかと思っておりますので、何か市民館のほうでございましたら。

事務局（吉越） やはり市民館、あとは菅生分館ですね。それぞれ定期的に活動している団体の皆さんですとか、あるいは個人の集まりとか、いろんなものがございます。市民の領域から、あるいは実益を兼ねたようなもの等があります。それに対して私どもは、皆さん自由に館を活用していただくとということになりますので、こちらで細かい登録の公式データという形では持ってはいないんですけれども、ただ、先ほど黒澤委員おっしゃっていただいたように、館に備えつけのこういった催しをやってますといった紹介のペーパーがたくさんファイルに挟んであります。その中に代表者とか連絡先のお名前もありますし、そこに参加して一緒にやりましょうといった資料がたくさんございます。

ただ、それを一緒にやろうというだけではなくて、恐らくそういった方たちは自分たちでいろいろ楽しいことをやっているほかに、いろんなところに自分たちの持っている能力といったものを紹介したいとか、教えたいという方たちが恐らく潜在的にたくさんいらっしゃるはずですよ。

あとは、その内容にもよりますけれども、年齢的にもなかなか理想のバランスよく一つの団体でということはない部分はありますけれども、やっぱり活動している内容によって若い世代の方も多くいますし、例えばダンスなどは割と中年の方が多くやっています。それに対して、例えば囲碁ですとか書道といった場合にはある程度高齢の方が多かったりとか、いろいろあります。そんな中でも、いろんな特徴を持った方がいらっしゃいますので、ぜひそういったものは活用いただいて、例えばやっている会のところにちょっとお顔出しいただいて、その辺のお話をして協力いただけるといった形でしていただく機会はあるのかなと考えております。

川田委員長 そういった団体の方たちを、こういう方たちがいますよと伺って、ちょっと聞かせていただいて、どういう方たちに声かけをしたらいいかというような相談も乗っていただければよろしいですか。

事務局（吉越） そうですね。こちらのほうでもできる範囲で、その辺は御協力をさせて

いただきたいと思います。ですから、そちらのほうで例えばこういう方たちがという場合に、まずはそういう方たちがいるかどうか。あとは、そのコーディネーターといえますか、きっかけとして、こんなお話があるんですけどもどうですかといったような御協力はできると思っております。

川田委員長 ありがとうございます。そのときはよろしくお願いいたします。

ほかに御意見などございませんか。とりあえず今のところ予定の時間どおりに進んでおりますので、ここで質疑応答を終了させていただきたいと思います。

それでは、これで本日用意しました議題は全て終了いたしましたので、区のほうにお戻しいたします。どうもありがとうございました。

3 その他の連絡事項

司会（堤） 川田委員長、どうもありがとうございました。皆様には、本日、長時間にわたり御議論をいただきまして、まことにありがとうございました。

この後、事務連絡等がございます。企画課の小西からさせていただきます。

事務局（小西） 事務連絡の前に、本日配付したチラシについて、田辺委員から御説明いただいてもよろしいでしょうか。

田辺委員 はい。お手元に黄色のチラシがございます。まちづくり協議会と宮前区が主催の第9回まちづくり広場ラブみやまえでございます。来月11日に市民館で行うイベントです。おかげさまをもちまして今回9回目なのですが、年々、最近入場者数が右肩上がりが増えておりまして、昨年たしか1000人近かったんじゃないかと記憶しております。

このチラシの表に書いていますけれども、目的は「宮前区を住みやすいコミュニティにするため、区民みんなで課題を見つけ話あって解決をめざす」と非常に固いことを書いているんですが、実はそれほど難しいことをやるわけではなくて、楽しいイベントです。特にメイン企画、宮前楽市というのは、裏面にありますが、約40を越す団体が日ごろ行っている活動を展示で紹介したり、ステージで発表したり、あるいは入場者の方に軽く体験してもらったりというようなプログラムとなっております。

要は、こういったことでいろんな活動があるんだなということを区民の人に知ってもらって、一人でも多くの方々がいろんな形で市民活動に参画していただきたいというのが目的でやっているイベントです。ぜひ、お時間がございましたら、ちょっとのぞいていただければありがたいです。

ありがとうございました。

事務局（小西） ありがとうございます。

では、事務連絡に入りたいと思います。今後の主な日程についてですけれども、次

回、第5回の地域福祉部会が2月1日水曜日にございます。それから、第5回の地域
活性部会は2月3日金曜日に行います。部会の審議について進めていきたいと考えて
いますし、あとはフォーラムの企画についても話し合いたいと考えております。いず
れも、18時から区役所の第1会議室で行う予定でおります。

また、2月6日月曜日ですけれども、区民会議交流会がエポックなかはらで開催さ
れます。事前に出欠の御連絡はいただいておりますので、出席される方は現地へ直接
お越しください。

それから、次第の中に2月24日に第3回企画部会と記載があるのですがけれども、こ
の日はちょっと川田委員長の御都合が悪いくということがありまして、委員長、副委員
長、両部会長については日程調整を後ほどまた行いたいと考えておりますので、よろ
しくお願いいたします。

先ほど区民会議フォーラムのお話がありましたけれども、3月11日土曜日10時から
12時半ということで、区民会議フォーラムを行いたいと思います。区民会議だよりを
発行して、2月に町内会へ回覧したいと思っております。その中でフォーラムの宣伝
も行っていきたいと考えております。

事務連絡は以上になります。

第4回会議をこれで終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。

午後7時42分閉会